

### 【学校経営の基本理念】

「少人数でもできる」「少人数だからこそできる」+「越えろ 一步前進」(少人数であることを強みに+取組をさらに前進させる)”をスローガンに「魅力ある学校」「学校・地域に誇りを持つ児童生徒」をキーワードに学校経営ビジョンを共有し、組織的な学校運営により学校の使命を果たし、通いたい、通わせたい、勤めたい、応援したい、学校づくりをめざす。

#### 学校教育目標

ふるさとを基盤に人や社会とつながり未来を拓く児童生徒の育成  
～自ら学び、課題を発見し、協働して解決することで未来を拓く力を持つ児童生徒～

#### 校訓

友愛 敬愛 郷土愛  
強く・正しく・寛やかに

#### めざす児童生徒

- ・自ら学び、考え、他者と協働して課題解決に向かう児童生徒
- ・礼儀正しく、自他を尊重する児童生徒
- ・心身ともに健康で、ふるさとに元気を届けることができる児童生徒

#### めざす教師像

- ・自ら学び、研鑽に励む教師
- ・プロとしての自覚と使命感をもち、児童生徒・保護者・地域から信頼される教師
- ・同僚、児童生徒、地域と協働して課題解決に向かう教師

#### めざす学校像

- ・「生きる力」を育む学校
- ・児童生徒が安全に、安心して生活できる学校
- ・地域とともにある持続可能な学校

教育方針 石川県、珠洲市の学校教育目標・指導の重点及び学校や生徒・地域の実態を踏まえ、次の3点を基盤にして教育目標の実現をめざす。

- (1) すべての児童生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりに努めます。
- (2) 児童生徒の学力保障と学力向上に努めます。
- (3) 児童生徒・地域・家庭から信頼される「魅力ある」学校づくりに努めます。

#### 令和8年度〈目指すところ〉

- ①卒業式・修了式での児童生徒の姿…児童生徒が自らの成長を実感する
- ②学習場面での生徒の変容…教師が児童生徒の成長に手ごたえを感じる
- ③地域の人材の活用や地域学習…地域の方が学校との結びつきを実感する

### 【重点目標】

#### 1. 確かな学力の育成

- ①ICTを活用した個別最適な学びと遠隔と対面の交流授業による協働的な学びを一体的に充実させた「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ②各種学力調査の有効活用
- ③家庭学習の質的・量的充実

#### 2. 生徒指導の充実

- ①児童生徒を主体とした、いじめ・不登校を生まない学校づくりの推進と児童生徒の居場所づくり
- ②自己理解・他者理解を基盤とした人間関係づくり

#### 3. 安全・健康教育の推進

- ①能登半島地震の経験を生かし、最悪の事態を想定して、最善の備えをする。
- ②望ましい生活習慣・食習慣の確立
- ③心のケアの充実

#### 4. コミュニティスクールの推進

- ①地域社会との連携の強化を図る。地域の児童生徒を地域で育てるカリキュラムづくりをする。
- ②積極的・タイムリーな情報発信。

## 学校経営の基本理念

「少人数でもできる」「少人数だからこそできる」+越えろ 一步前進（少人数であることを強みに+取組をさらに前進させる）」をスローガンに取り組む。令和6年度と令和7年度は「少人数でもできる」「少人数だからこそできる」をスローガンに、「児童生徒数が少ないからできない」や「こうなっても仕方がない」ではなく、地震災害後も大谷小中に残って学習することを決意した児童生徒が残ってよかったと思えるように、少人数であっても工夫して取り組むことができた。児童生徒も「少数最強」を実現できたと自信を持つことができた。日々の授業はもちろん学校行事もそうであるし、児童生徒会活動もそうである。先生方の頑張りとチームワークでこの2年間の取組は、大変良いものであったと自負している。今年度は、震災後3年目ということで、これまでの取組に加えて、「越えろ 一步前進」を加えた。これまでの「支援して支えてもらう」から、自分たちの力で一步を歩みだすことを目標としたい。ほんの小さな一步でも構わない。とにかく最先端の復興に向けて大谷小中も一步前進していきたい。大谷小中学校だからこそできる取組をしたい。

「少人数でもできる」少人数でも工夫することで、運動会や文化祭など児童生徒が満足する形で取り組むことができる。児童生徒の考えを尊重し、教員と協働することで工夫をしていきたい。

「少人数だからこそできること」授業では、個別最適化された授業の充実を図ってほしい。今年度も、教科教室とするので、教科教室の掲示物・教具の充実を図ることや第三者の意見の活用による思考の深まりを図ることに重点を置く。遠隔授業と対面の交流学习に積極的に取り組み、協働的な学びの充実を図ってほしい。少人数だからこそその機動力を生かしてほしい。また、様々な方とのつながりをどんどん増やしていくこと、多様な体験ができるようにすることなどに取り組んでいく。

「越えろ 一步前進」総合的な学習の時間では、地域の良さを学び、観光ガイドができるようにしよう（仮題）に取り組む、積極的に地域の良さをアピールできるようにする。また、学校のPR動画の作成とリーフレットの作成を通して、学校の良さをアピールできるようにしたい。「大谷ガチャ第3弾」と「人の輪」の取組についても、前進させたい。

「魅力ある学校」をキーワードに学校経営ビジョンを共有するために、魅力ある学校とは、

- ・児童生徒にとっての魅力 ⇒ 自らの成長を実感できたとき。ありたい姿の自分になれたとき。
- ・教師にとっての魅力 ⇒ 生徒の成長を実感できたとき。教師としての成長を実感できたとき。
- ・保護者にとっての魅力 ⇒ 子ども望ましい変容を見ることができたとき。子どもが笑顔で学校での出来事を話すとき。
- ・地域にとっての魅力 ⇒ 学校との結びつきを実感できたとき。子どもたちが地域の活力となっていることを実感できたとき。

各主任を中心とし、組織的な学校運営により学校の使命を果たし、通いたい、通わせたい、勤めたい、応援したい、学校づくりをめざします。

地震で大谷小中学校を離れざるを得なかった児童生徒が帰ってきて学びたい学校となるようにまた、他地区の生徒もぜひ大谷小中で学びたいと思えるようにします。児童生徒に「自他の生命を守り、しなやかに行動する力」「人や社会とつながり、支え合う力」「ふるさとを基盤に、未来を拓く力」をつけるために全教職員で職務にあたります。

学校教育目標	ふるさとを基盤に人や社会とつながり未来を拓く児童生徒の育成 ～自ら学び、課題を発見し、協働して解決することで未来を拓く力を持つ児童生徒～
--------	---

児童生徒に身につけたい資質・能力「自他の生命を守り、しなやかに行動する力」「人や社会とつながり、支え合う力」「ふるさとを基盤に、未来を拓く力」が確実に身につくようにします。キーワードを「ふるさと」「つながり」「未来を拓く」としました。珠洲市の子どもたちは、同じ方向を向いて学んでいきます。

「自ら学び」というのは、自立した学習者を目指すということです。つまり、自らの力で課題を見出し、課題を解決する力をつけることを目指します。少人数の授業では、どうしても教師に頼りがちになる傾向があります。義務教育修了後は、自力で学習を進める力が求められています。そのためにも、基礎的な知識技能を活用して、課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育むための個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実されるように教育課程において工夫することが求められます。今後、生徒との話し合いを通して、勉強することの楽しさを味わうことができるよう、生徒の意見を尊重し、授業改善を行うことが求められています。

「協働して解決することで未来を拓く力」というのは、児童生徒数4人だからこそ、多様な他者と協働することを仕掛けていかなければなりません。これまで、地域の方々（亀山公民館長、平家の里構想研究会、一步の会）や大谷ガチャを起点としたプロの方々に学び、協働してきました。さらに、取組を進め、様々な方々と協働したいと考えています。様々な学習に挑戦し、結果を出すことで、自己肯定感を高めるとともに、本校で学習することを選択してよかったと思えるようになります。昨年度は、陸上競技、英語のスピーチコンテスト・英語検定・市百人一首大会などでした。今年度は、さらに挑戦できるようにしたいです。また、仮設住宅の住民の方々との交流、卒業生によるキャリア教育の充実を図り、地域のよさについて学ぶことが必要です。また、地域の抱える課題に着目し、地域の方々とともに解決しようとするすることで、学校・地域に誇りをもつことができるようにすることが求められます。



この時、基本理念である「少人数だからこそできる個別最適な学習」と「少人数でもできる多様な人・ものとのつながり」「一歩前進」を意識してほしいです。

学校教育目標の実現にあたって

#### 【めざす生徒像】

・自ら学び、考え、他者と協働して課題解決に向かう児童・生徒（知）

Society 5.0の時代に入りつつある現在、AIの発達により、2045年に起こると予測されているシンギュラリティにより、職業観が変わりつつある中、学び続けていくことが必要とされています。義務教育の中で、自分で学び、自分で考える力を育むことが求められています。また、現代、山積する課題（人口減少・少子高齢化・環境問題・自然災害の多発など）を解決することは一人では無理なことです。多様な他者とそれぞれの得意を生かしながら協働して解決に向かうことが求められています。

少人数である本校の児童・生徒が多様な他者と協働するためにはどのような方法があるのか。昨年度は、オンライン授業での他者との協働を実施しました。また、市内の中学校と対面での交流学习を行いました。今年度は、この2つの方法をさらに推し進めます。教育課程のどのような学習において有効なのかを考え、計画をします。1学期に各教科各学年で1回以上のオンラインまたは交流学习をします。さらに昨年度の課題である、言い切る力・書き切る力・やり切る力をつけます。子どもたちの学びを保障するためにも教師も協働していくことを目指します。

・礼儀正しく、自他を尊重する児童・生徒（徳）

昨年度も「あいさつ」に力を入れて取り組んできました。取り組みの成果は出ています。また、「礼に始まり礼に終わる」を実践にも力を入れました。「語先後礼」もしっかりとできるようになりました。全員で取り組むことで大変「礼」がよくなったと感じています。「礼」には相手を尊重する、相手に感謝するという意味があります。今年度も継続して授業の始まり・終わりは言うまでもなく、自他を尊重する一つの形として「礼」（あいさつ）のあふれる学校をめざします。特に今年度は、「親しき中にも礼儀あり」「公の場で公の言葉遣いができる」こと、感謝の気持ちを自分の言葉で「礼」を尽くしたあいさつができることを目指します。

・心身ともに健康で、ふるさとに元気を届けることができる児童・生徒（体）

地震の影響は、まだまだ続きます。トラウマということもあり、児童・生徒の心のケアも続け、心身ともに健康な児童・生徒をめざします。昨年度も、スクールカウンセラーの方の力も借りて、さまざまな取組を行いました。今年も、引き続き生徒の心のケアに取り組めます。今年度も、スクールカウンセラーと連携してこの授業を行います。児童・生徒が心身ともに健康であることがふるさと大谷を元気づけることにつながります。昨年度に引き続き、生徒の笑顔が地域の方々を笑顔にするような活動や体験をします。

今年度も、道徳の授業で、ローテーション道徳と全校道徳を行います。管理職と養護助教諭も含め8名で各学年の道徳の授業を行います。

#### 【めざす教師像】

・自ら学び、研鑽に励む教師

「教師は授業で勝負する！」⇒「わかる」「できる」授業実践を積み重ねるための学びを！

楽しい授業、勉強が楽しくなる授業について、話し合い、考えていきたいです。

※ 子どもたちのホワイトボード・ミーティングで出てきた言葉「勉強は楽しくない」に対し、少しでも勉強の楽しさを知ってほしい。また、生徒からの質問、「テスト勉強は、ワークの○付けだけで終わっていいの？」についても考えていきたい。

学習指導要領の趣旨の理解と実践を確実にいきます。

教員育成指標をもとに、自らの学びをコーディネートし、研修で主体的・対話的で深い学びを実現します。

・プロとしての自覚と使命感をもち、生徒・保護者・地域から信頼される教師

プロとは結果を出す人！

児童・生徒、保護者等との適切な距離感（近すぎず、遠すぎず、平等に）

たとえ1人の児童・生徒の授業であっても授業規律をしっかりと！（メリハリをつける）

アンテナ高く、常に磨いて感度よく（気づいたことは、どんな小さなことでも共有を）

誰にでもできることを誰にもできないほど徹底する（凡事徹底）「場を清め、時を守り、礼をつくす」

意図的・計画的・組織的・継続的・徹底的な指導をする

個人情報の適切な管理を（学校は個人情報の宝庫⇒重みと管理の大切さ）

報告・連絡・相談の徹底⇒悪い情報ほど速やかに！どんな小さなことでもすぐに！

法令を遵守する教育公務員としての自覚（教育活動はすべて法令に基づいている）

※ 服務規律の徹底⇒地方公務員（第30条～38条）・教育公務員特例法（第17条～19条）

信頼される教職員としての身だしなみ⇒率先垂範（人の先頭に立って自ら物事を行い、模範を示す）

・同僚、児童・生徒、地域と協働して課題解決に向かう教師

「抱え込み」を排除し、チームによる迅速・誠実・的確な解決⇒協働性を高める。  
コミュニティスクールによる熟議を児童・生徒、地域と協働して行う。  
一人ではできないことも、多様な他者と協働することで課題解決に向かう。  
アイデアを出し合い、協働する場をつくる。  
児童生徒の意見にも耳を傾け、学校運営に参画してもらう。

めざす学校像

・「生きる力」を育む学校

教職員が絶えず研究と修養に努め、質の高い授業実践を行う学校  
生徒の学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る学校

・児童・生徒が安全に、安心して生活できる学校

教師と児童・生徒、児童・生徒同士の信頼関係を基盤に、児童・生徒が充実感をもって生活できる学校  
生徒の安全を保障する教育環境の整備と生命を守る教育を実践する学校

・地域とともにある持続可能な学校

地域の人材や地域の素材などを教育活動に生かし、積極的・タイムリーに情報発信をする学校  
ふるさと大谷に誇りをもち、郷土を大切に作る心を育てる学校

【重点取組】

1. 確かな学力の育成

- ①ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びによる、「主体的・対話的で深い学び」の実践をする。  
生徒数が少ない中ICTを上手に活用することが大切である。特に交流学习やmeet、zoomで他校の生徒と対話をする場面を作るなどの工夫をする。また、対面による交流学习を行う。教育課程の中で、効果的に行えるように、年度当初から計画を立てる。また、発展的な学習や生活に関連した課題の学習に取り組むことで、児童生徒の意欲を引き出す。全国学力学習状況調査や県基礎学力調査や高校入試問題などに積極的に挑戦させる。
- ②各種学力調査の有効活用をする。学力調査で生徒個々の学力の強みと弱みを分析し、弱点を克服できるようにカリキュラムに位置付ける。
- ③家庭学習の質的・量的充実。児童生徒の家庭学習についての実態を把握し、個々の生徒に質的・量的充実が図れるようにする。可視化することや、自分の努力が成果となって現れる場面を授業の中でつくる。個別最適な家庭学習について考える。

2. 児童生徒指導の充実

- ①児童生徒が主体となった、いじめ・不登校を生まない学校づくりの推進をする。児童生徒を主体とした集会活動を月1回計画的に行う。合わせて、児童生徒が主体的にいじめについて考える機会を持つ。生徒が気持ちを落ち着けて安らげる教室をつくる。(週1~2日、カウンセラーや学習支援の先生を配置する)
- ②自己理解・他者理解を基盤とした人間関係づくり。生徒の発案による遊びの日(仮称)などで、相互理解ができる場を設ける。また、生徒が企画・実施にかかわることで相手意識を持つことができるようにする。

### 3. 安全・健康教育の推進

- ①能登半島地震の経験を生かし、最悪の事態を想定して、最善の備えをする。生徒・教職員の連絡体制を作る。災害のメカニズムについて学習するなど、防災学習を充実し、計画的な避難訓練を行う。また、仮設住宅の方々と連携した学習会などを行う。
- ②望ましい生活習慣・食習慣の確立。避難所での生活から、生活習慣・食習慣の学習等のチェックを行う。メディアとの付き合い方について、非行被害防止講座などを活用し、親子で話し合う場をつくる。ノーメディアデイの取組について、児童生徒が主体的に考え、時間を有効に活用することができるようにする。
- ③心のケアの充実。スクールカウンセラーを活用し、心のケアの充実を行う。また、必要な情報を共有するためにも、報告・連絡・相談の徹底を行う。

### 4. コミュニティスクールの推進

- ①地域社会との連携の強化を図る。地域の児童生徒を地域で育てるカリキュラムづくりをする。総合的な学習の時間のカリキュラムに、地域の人的資源・物的資源・体験学習を位置付ける。また、学校運営協議会で熟議を行い、児童生徒を交えての意見交流をする。
- ②積極的・タイムリーな情報発信。ホームページ、学校だよりなどにより、情報発信をする。特にホームページはタイムリーな情報を発信できるようにする。昨年度の学校運営協議会のご意見を受けて、学校便りにHPのQRコードを掲載した。また、学級だよりをこまめに発行してほしいという要望があった。
- ③学校運営協議会を地域の方に開き、様々な方に学校運営に参加してもらおう。今年度は、中学生にも参加してもらい、自分たちの意見を述べてもらう。学校運営協議会の委員の数は10名だが、オブザーバーとして、地域の方々の参加も呼び掛ける。学校運営協議会の意見を踏まえ、社会に開かれたカリキュラム作りを進める。
- ④熟議には、兵庫教育大学澤野教授を招聘する。多くの方が大谷について語る場としたい。